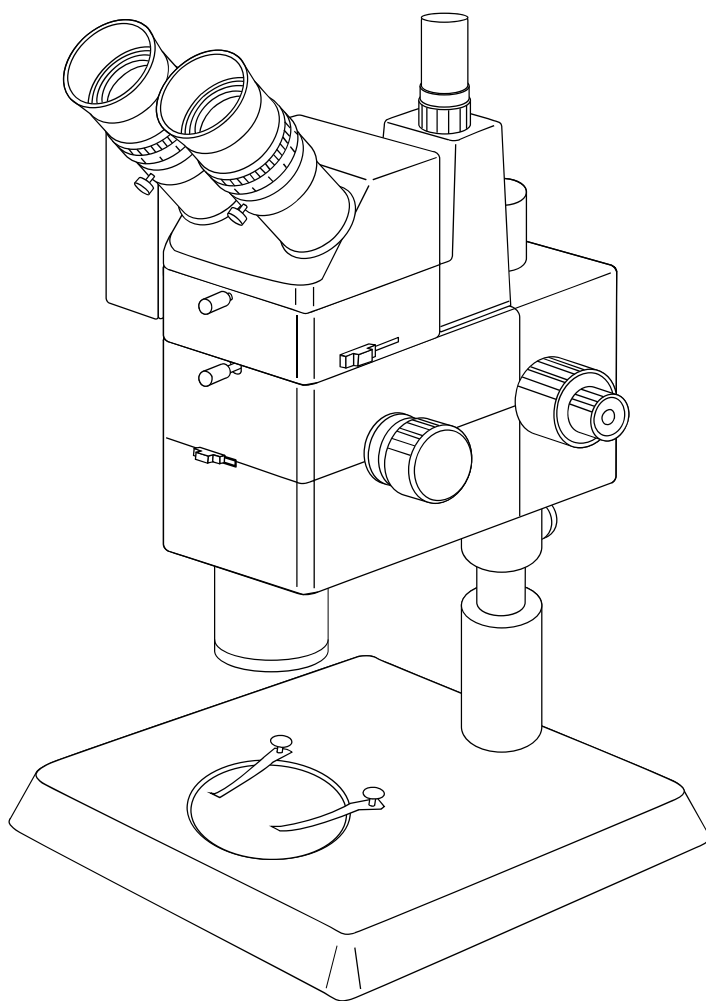




取扱説明書

RZ シリーズ ズームステレオ顕微鏡



✠ メイジテクノ株式会社

RZ シリーズ 実体顕微鏡

取扱説明書

< 目 次 >

組立て方について

1. 開梱	2
2. 顕微鏡ボディとスタンド	2
3. 対物レンズ	2
4. 鏡筒	3
5. 接眼レンズ	3

アイガード（目当てゴム）の取り付けかた	4
眼幅調節のしかた	4
正しいアイポイント（瞳孔位置）の探しかた	4
眼鏡を使用して観察する場合	4
標準双眼鏡筒	5
エルゴノミック双眼鏡筒	5
観察位置（高さ）調節	5
標本面から顕微鏡ボディの間隔調節	5
焦点の合わせ方	5
ハンドルの固さ調節	6
ズームングの方法	6
倍率表示リング	6
視度及び同焦点調節	6
マイクロ入り接眼レンズ使用時の視度と同焦点の合わせ方	7
虹彩絞り（明るさ絞り）の使い方	7

オプション用品とその用法

COX 同軸反射照明装置	7
RZT 明視野透過照明装置付きスタンド（6V 30Wハロゲン電球）	8
RZDT 明・暗視野透過照明装置付きスタンド（6V 30W ハロゲン電球）	8
顕微鏡写真・ビデオマイクロスコープ	9
MA751 フォト・ビデオアタッチメントの取り付け方	9
MA765 描画装置の取り付け方	10
倍率表	11

保守手入れ

電球とヒューズの交換	12
RZT及びRZDTのスタンドの電球交換	12
RZBDスタンドの電球交換	12
保管のしかた	13
クリーニングのしかた	13

組立て方について

ご使用になる前に、必ずこの取扱い説明書をお読み下さい。本品はモジュラー方式ですから、組み合わせが多く、お買い求めのユニットごとの図・名称・仕様が本書に載らない場合は、類似品のものをご参照下さい。このことをご理解の上、注文された部品をどのような順序で、どのように組み立てるか、作業にかかる前に確認して下さい。なお、露出しているレンズやプリズムの表面にホコリなどが付着していないことを確かめてから組立てて下さいます。

1. 開梱

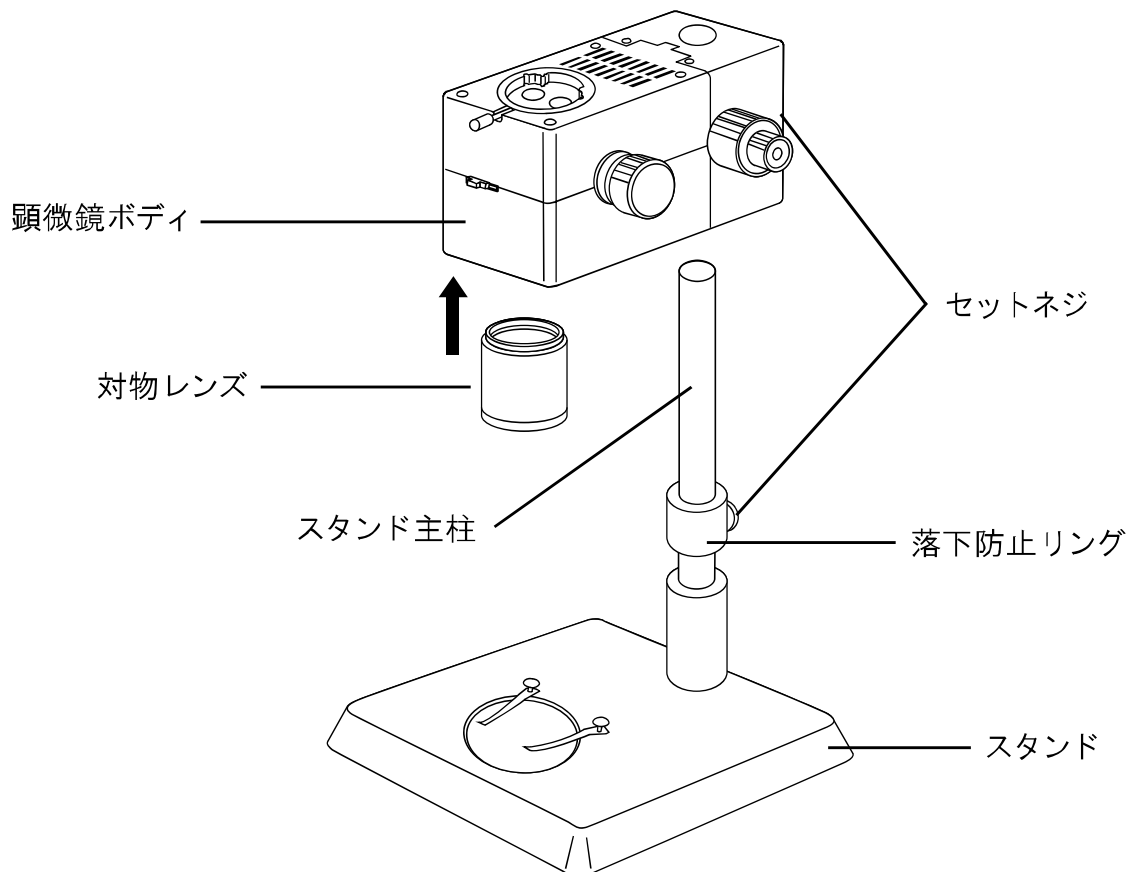
精密機械ですから開梱は十分注意して行って下さい。開梱と同時に内容物が注文品に間違いのないことを送り状明細と照らし合わせながら確認して下さい。

2. 顕微鏡ボディとスタンド

通常顕微鏡本体はスタンドに取り付けた状態で発送されますが、そうでない場合は次の手順で取り付けして下さい。顕微鏡ボディ背面セットネジをゆるめて、顕微鏡ボディをスタンドの主柱の先端からゆっくり滑らすように落とし込んで適当な位置で背面セットネジを締めます。さらに落下防止リングをボディの真下に移動してネジを締めます。落下防止リングは顕微鏡ボディを移動する際、必ずその都度締め直して下さい。

3. 対物レンズ

顕微鏡ボディの低部前方に対物レンズを取付けるためのネジが切っております。そのネジ部に対物レンズを時計方向に回してねじ込んで下さい。その際対物レンズが手元から落下しないように、又、レンズの表面に触らないように注意して作業を行って下さい。

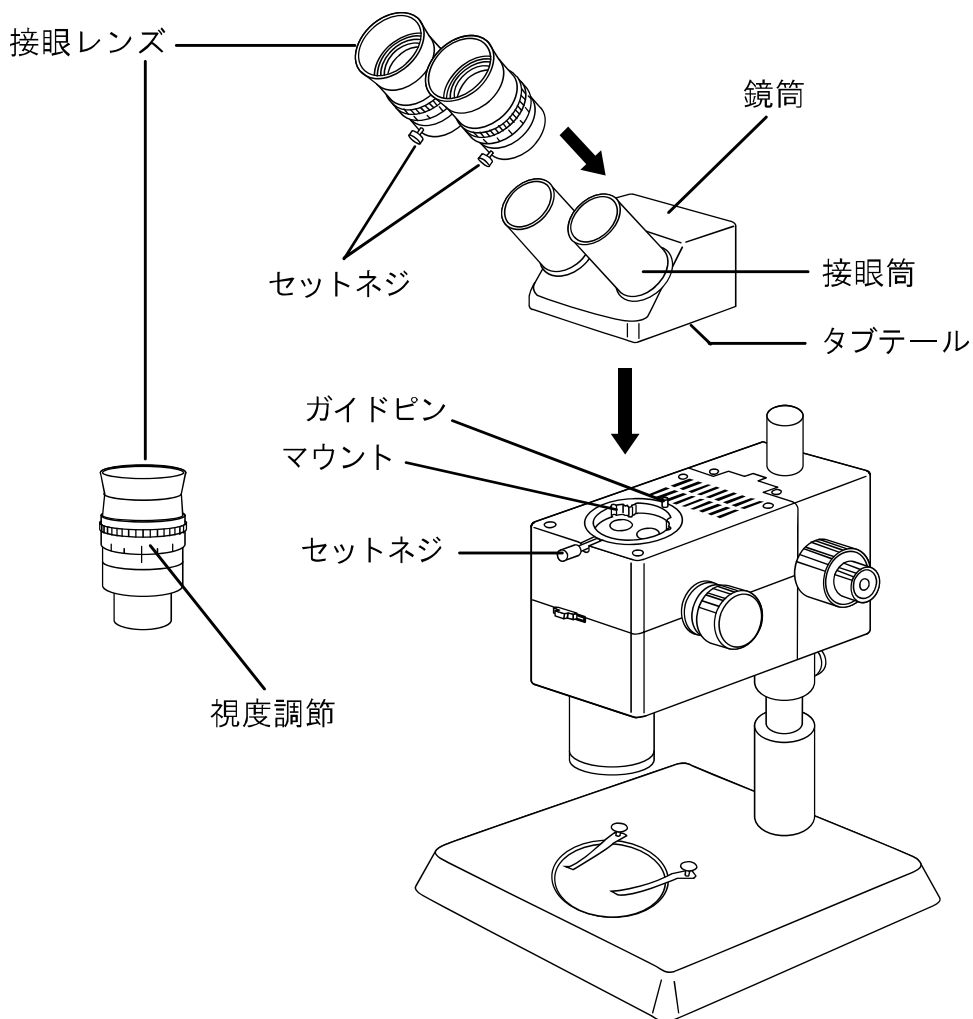


4. 鏡筒

標準型機種の場合には鏡筒を顕微鏡ボディに直接取り付けます。COX同軸照明装置や写真／ビデオ装置を使用する場合は、これらの装置を顕微鏡ボディの上にセットして、セットした装置の上に鏡筒を取り付けます（7、9ページ参照）。顕微鏡ボディ前面上部のセットネジをゆるめて、ボディ上部のマウント（円形窪）に鏡筒のダブテール（円錐形の部分）を落とし込みます。その際、マウント後方のガイドピンが鏡筒ダブテールの受け穴にきちんと収まるようにして下さい。収まったところでセットネジを締めます。

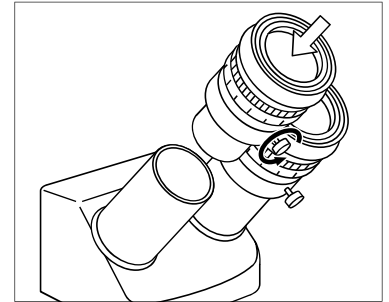
5. 接眼レンズ

RZシリーズの接眼レンズには、1個ずつそれぞれセットネジが付いています。接眼レンズを鏡筒の接眼筒に差し込む前に、必ずセットネジを十分ゆるめてからきちんと差し込み、セットネジが真下方向にくるように位置を調節してセットネジを締めつけて下さい。（セットネジを十分ゆるめないで差し込むと、途中で止まってしまうことがありますので注意して下さい。）左右の接眼レンズの視度を視度目盛り環を回して0の位置に合わせます。視度調節は $+5^{\circ}$ から -5° の範囲で調節することができます。



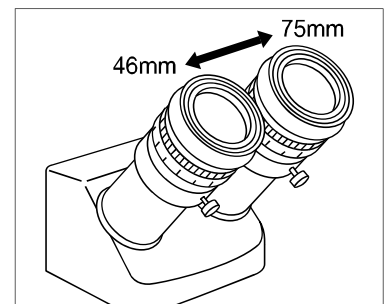
アイガード（目当てゴム）の取り付けかた

すべての接眼レンズにゴム製のアイガードが付いています。アイガードを使用することで観察像の品質を損なう散光を避けられます。又レンズの表面を事故による損傷から守ることができます。もし、アイガードが外れた場合は、接眼レンズの見口（先端部）から被せて押し込めば簡単に取り付けることができます。



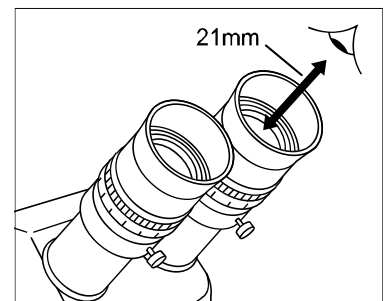
眼幅調節のしかた

観察者が左右両方の目で一つの標本を観察したときにその観察像が完全な一つの円になって見えるように左右接眼レンズの間隔を調節することが眼幅調節です。像をのぞきながら、左右の接眼筒をそれぞれ手で握って左右の接眼レンズを近づけたり離したりして観察像が完全に一つの円になる位置を探します。標準の45°傾斜鏡筒では46mmから75mm、エルゴノミック鏡筒では52mmから75mmの範囲で眼幅調節ができます。



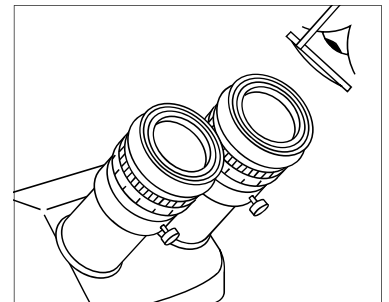
正しいアイポイント（瞳孔位置）の探しかた

アイポイントとは、観察者の瞳と接眼レンズ先端までの距離のことを言います。目を接眼レンズから少し離して標本を観察し、段々と近づけていきながら、ピントがはっきり合って視野全体がきちんと見える位置を探します。その位置が正しいアイポイントです。



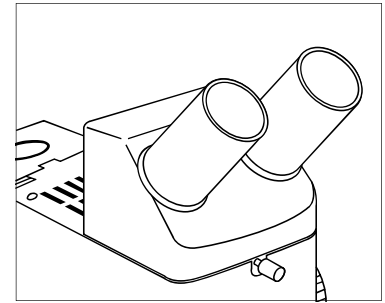
眼鏡を使用して観察する場合

眼鏡をかけて観察するときアイガードが邪魔になるようなことがあります。そのような場合はアイガードを外側にめくって使用して下さい。アイガードをめくることにより、接眼レンズとの間に少し距離がとれます。



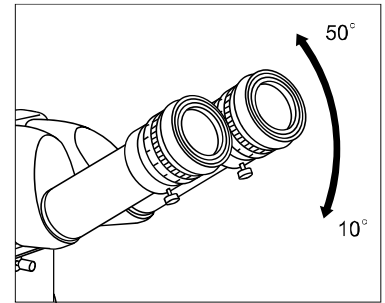
標準双眼鏡筒

標準双眼鏡筒は観察傾斜角度が 45° に固定されています。目幅は46mmから75mmの範囲で調節できます。



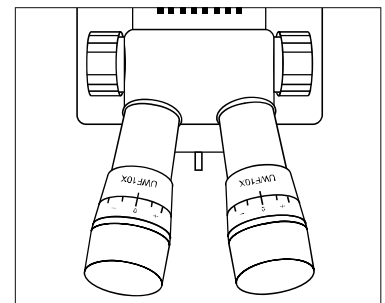
エルゴノミック双眼鏡筒

エルゴノミック双眼鏡筒は、観察傾斜角度が水平上 10° から 50° までの範囲で任意の位置に止めて使用できます。目幅は52mmから75mmの範囲で調節できます。



観察位置（高さ）調節

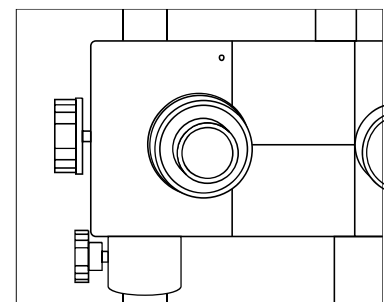
首筋や背中に疲労や緊張を感じないで長時間観察できる状態であれば、目の位置は正しく調節されています。エルゴノミック双眼鏡筒の場合は左右の接眼鏡筒を両手で握って、上下方向に動かしてみても接眼鏡筒の傾斜角度を調節（水平上に 10° から 50° の間で）して一番楽な姿勢で観察できる位置で止めることができます。



標準双眼鏡筒の場合は傾斜角度が 45° に固定されているので、鏡筒で高さ調節は出来ません。顕微鏡を載せるテーブル、あるいは椅子の高さを変えて最適な高さを得てください。

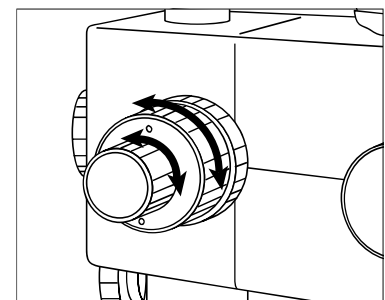
標本面から顕微鏡ボディの間隔調節

左右接眼鏡筒の視度を0に合わせます。標本の観察面を上にして対物レンズの真下に置きます。ズーミングハンドルを回して、最低倍率（7.5）に合わせます。顕微鏡ボディを片方の手で支えながら、ボディの背中にあるセットネジをゆるめて、接眼鏡筒をのぞきながら本体自体を上げ下げして標本が大体見えたところでセットネジを締めます。



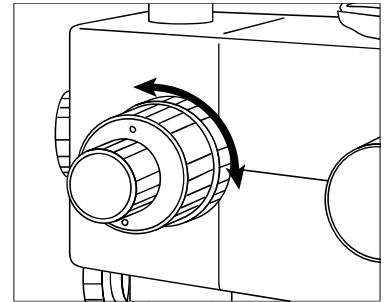
焦点の合わせ方

粗動ハンドルと微動ハンドルは顕微鏡ボディ左右両側に付いており左右いずれの側でも操作できます。粗動ハンドルは 360° 回転し、粗動ハンドル操作による顕微鏡ボディの垂直方向移動範囲は50mmです。粗動ハンドルで大まかなピントを合わせ、微動ハンドルを回転して精密なピント合わせを行います。



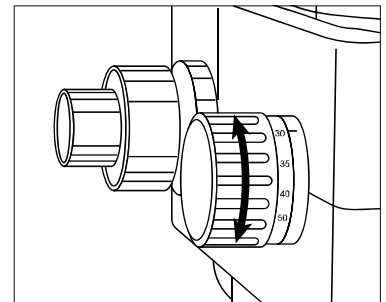
ハンドルの固さ調節

焦点合わせハンドルの固さを調節するためのハンドルが左側粗動ハンドルの内側に取り付けてあります。ハンドル固さ調節ハンドルを時計方向に回すと焦点合わせ機構はゆるくなり、反時計方向に回すと固くなります。お使い易い固さに合わせて使用して下さい。



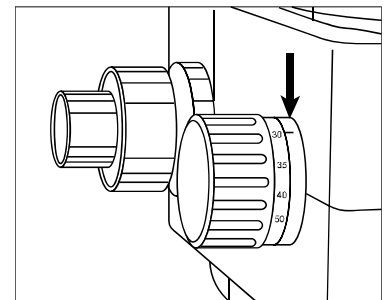
ズームングの方法

RZシリーズはズーム比率10対1のズーム実体顕微鏡です。12段階のクリックストップが付いています。ズームングハンドルは顕微鏡ボディの左右両サイドに付いています。いずれの側でも操作できます。ズームングハンドルを時計方向に回すと倍率は大きくなり反時計方向に回すと小さくなります。



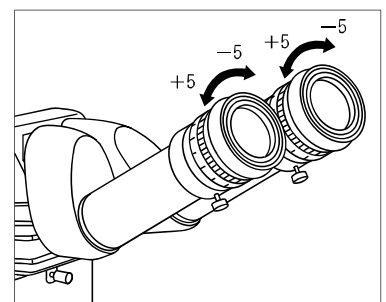
倍率表示リング

倍率表示リングは、標準1倍対物レンズと10倍接眼レンズを使用した際の総合倍率が表示されます。オプション対物レンズとオプション接眼レンズを使用した際の総合倍率に関しては10ページの倍率表を参照して下さい。



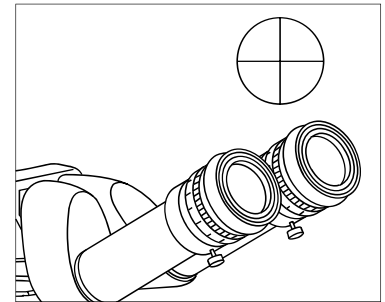
視度及び同焦点調節

左右両側接眼レンズの視度を0位置に合わせて下さい。平らな標本を顕微鏡のステージ上対物レンズの真下に置きます。ズームングハンドルを時計方向に回して最高倍率位置にし、粗動・微動ハンドルで標本にピントを合わせます。次に、ズームングハンドルを反時計方向に回して最低倍率にします。そして今度は、左目を閉じて、右の目で右側の接眼レンズをのぞき、右側接眼レンズの視度調節リングをゆっくりとプラスあるいはマイナス方向に標本にピントが合うまで回します。右目を閉じて、左の目で同様の調節を行います。つまり、最大倍率では焦点合わせをハンドル（粗動・微動）を使って行い、最低倍率では左右接眼レンズそれぞれの視度調節リングを回して行います。この操作を二回繰り返して下さい。この調節を正しく行えば、次回から一度ピントを合わせるとズームングしても全倍率を通してピントがぼけることはありません。



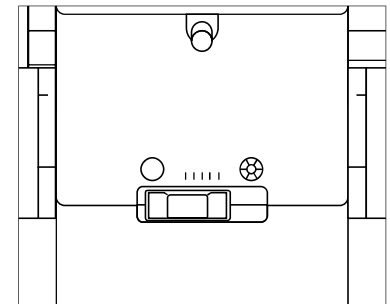
接眼ミクロ入り接眼レンズ使用時の視度と同焦点の合わせ方

接眼ミクロ入り接眼レンズを鏡筒の右側接眼筒装着し、ミクロの入っていない接眼レンズを左の筒に装着します。右側の接眼レンズを右側の眼でのぞきながら視度調節リングをプラス、あるいはマイナス方向に回し筒中の十字線がはっきり見えるようにします。平らな標本を対物レンズの真下に置き、ズーミングハンドルで倍率表示を最高の75に合わせ、粗動・微動ハンドルを使って標本に右側の目でピントを合わせます。つぎに、倍率表示を最低の7.5に合わせて、こんどは右目を閉じて、左側接眼レンズを左目で覗き、左側接眼レンズの視度調節リングを回すだけで（粗・微動ハンドルを使わずに）標本にピントを合わせます。十字線他のミクロ入り接眼レンズを使用する場合は、この方法で一度ピントを合わせると倍率を変えてもピントの合った状態を保つことができます。もし、ぼけるようなことがある場合は、粗・微動ハンドルで再調節して下さい。



虹彩絞り（明るさ絞り）の使い方

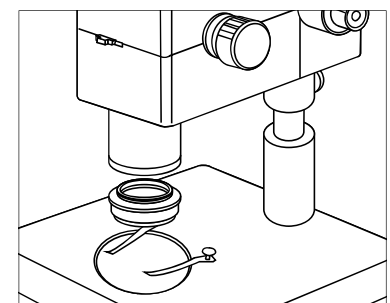
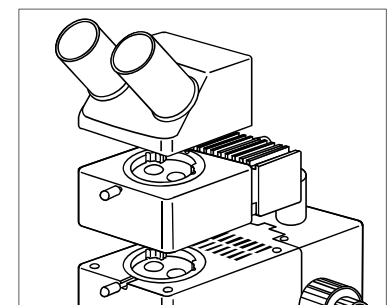
虹彩絞りコントロールつまみが顕微鏡ボディ正面中央に付いています。絞りを絞り込むことにより深度をより深くすることが出来ます。しかし、絞った状態では観察像が若干暗くなり、写真撮影の際露出時間が長くなります。また解像力も若干損なわれます。



オプション用品とその用法

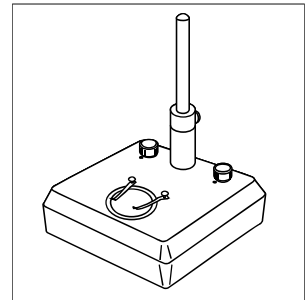
COX 同軸反射照明装置

同軸反射照明装置はI.C.、半導体ウエハー、金属の研磨面、半田付けの状態（ハンダボール）、磁気ヘッド等々のフラットで強い反射面を持つ試料を観察するために不可欠な照明装置です。COX同軸照明装置は、顕微鏡ボディと鏡筒の間に装着します。また、写真・ビデオアタッチメントを使用するときは、顕微鏡ボディとアタッチメントの間に装着します。同軸照明装置を使って鏡面状の試料を観察するときは、必ず1/4波長板の使用が必要です。MA762 1/4波長板（回転枠入り）を対物レンズの先端に取り付け、観察しながらゆっくり1/4波長板を回転して鏡面状の試料が最もよく見える位置でとめて下さい。同軸反射照明装置を装着することにより、総合倍率は1.5倍増加します。使用電源は6V 30Wハロゲン電球です。



RZT 明視野透過照明装置付きスタンド（6V 30Wハロゲン電球）

RZTは、透明な試料を明視野透過照明で観察するための、6V30Wハロゲン電球使用、調光器付照明装置スタンドです。直径95mm透明ガラスステージプレートと2本のステーシクリップが付いています。ステーシクリップは垂直に引っ張ると抜けます。スタンドは静電気防止塗装仕上げのアルミ合金ダイキャスト製です。COX同軸照明装置や他の補助照明を使用する際のために予備電源6V30Wを備えています。ベースの背面にコンセントが二つあり、中央が透過照明を接続するコンセントで、右側のコンセントは予備照明用です。スタンドの正面から見て右側の調光器が透過照明で左側は予備照明用です。



サイズ ベース：280mm（幅）× 255mm（奥行き）× 85mm（高さ）
主 柱：325mm（ベース面上の高さ）

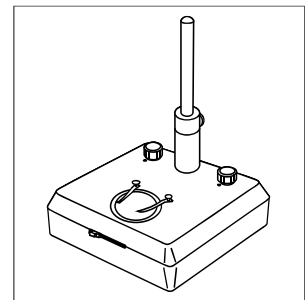
カタログ番号：MA326 スペアハロゲン電球 6V30W

カタログ番号：MA767 クリヤーブルーフィルター、直径59.8mm（オプション）

カタログ番号：MA766 防熱フィルター、直径59.8mm（オプション）

RZDT 明・暗視野透過照明装置付きスタンド（6V30W ハロゲン電球）

RZDTは、透明な試料を明視野又は暗視野透過照明下で観察するための6V30Wハロゲン電球を光源にした、調光器付照明装置スタンドです。直径95mm透明ガラスステージプレートと、2本のステーシクリップが付いています。ステーシクリップは垂直に引っ張ると抜けます。明視野から暗視野へ、又は暗視野から明視野への切り換えはスタンド正面中央のつまみを左右に移動することで簡単にできます。スタンドは静電気防止塗装仕上げのアルミ合金ダイキャスト製です。COX同軸照明装置や他の補助照明を使用する際のために予備電源6V30Wを備えています。ベースの背面にコンセントが二つあり、中央が透過照明を接続するコンセントで、右側のコンセントは予備照明用です。スタンドの正面から見て右側の調光器が透過照明で左側は予備照明用です。



サイズ ベース：280mm（幅）× 255mm（奥行き）× 85mm（高さ）
主 柱：325mm（ベース面上の高さ）

カタログ番号：MA326 スペアハロゲン電球 6V30W

カタログ番号：MA767 クリヤーブルーフィルター、直径59.8mm（オプション）

カタログ番号：MA766 防熱フィルター、直径59.8mm（オプション）

顕微鏡写真・ビデオマイクロスコープ

最初に必要な付属品は、MA751フォト・ビデオアタッチメントです。MA 751フォト・ビデオアタッチメントは、試料を35mm写真や大判写真に撮影したり、又はテレビスクリーンに映し出したりするためのアタッチメントです。さらに、MA752ビデオアタッチメントをMA751に取り付けると、写真撮影とテレビ映しを同時に行うことができます。（MA752単独で使用することはできません。）

MA751 フォト・ビデオアタッチメント

MA751フォト・ビデオアタッチメントには、対物レンズを通して入ってきた光量の80%をアタッチメントのフォトチューブ（垂直筒）へ、20%を顕微鏡の接眼レンズへと分光するプリズム（ビームスプリッター）が内蔵されています。MA751フォト・ビデオアタッチメントの横面に“BI/PHOTO”と“BI”の記号が記されており、記号のすぐ下に取り付けてあるスライダーコントロール（つまみ）を動かして、つまみの指線を“BI/PHOTO”の位置に合わせると全光量の80%をアタッチメントへ、20%は顕微鏡の接眼レンズへ導かれます。つまみの指線を“BI”に合わせると全光量（100%）が顕微鏡の接眼レンズに導入されます。この仕組みの採用により写真撮影あるいはテレビ観察を行いながら同時に顕微鏡観察を続けることができます。〔写真撮影やテレビ観察を行うためには、さらに他の付属品が必要です。〕

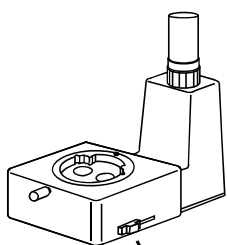
MA751 フォト・ビデオアタッチメントの取り付け方

MA751フォト・ビデオアタッチメントは、鏡筒や同軸照明装置の取り付けの時と同じ方法でアタッチメントのダブテールを本体のマウントに落とし込むようにして取り付けます。3ページを参考にして下さい。COX同軸照明装置を使用する場合は、先に本体に照明装置、MA751フォト・ビデオアタッチメント、そして鏡筒の順に重ねて取り付けます。

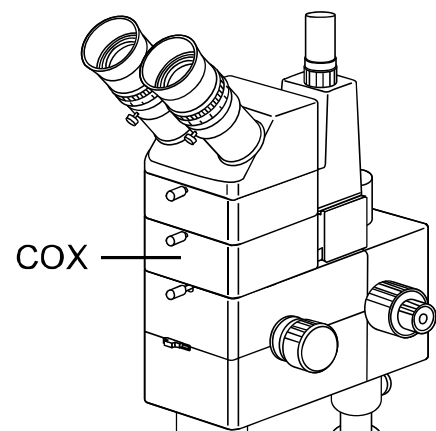
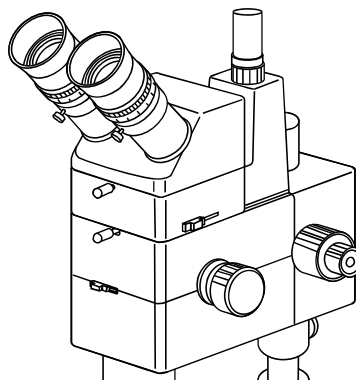
COX 同軸照明装置を取り付けた上にフォト・ビデオアタッチメントを取り付けた状態

MA751

フォト・ビデオアタッチメント



ビームスプリッター
スライダーコントロール

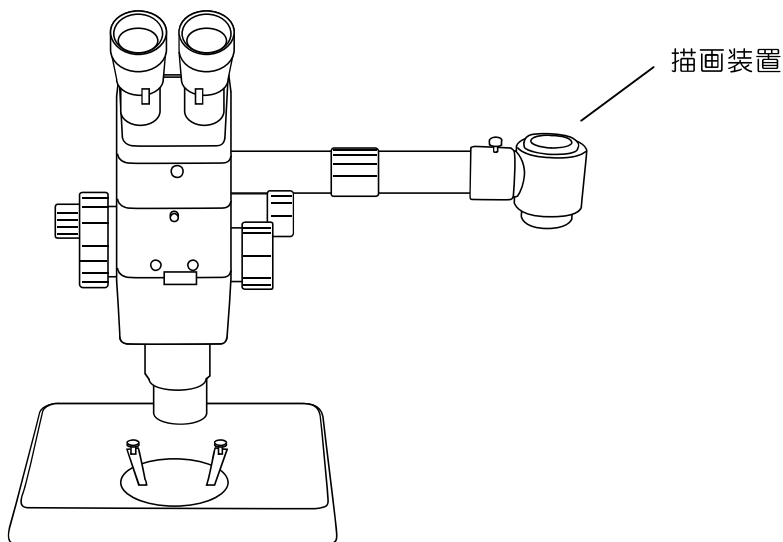



MA765 描画装置

標本を観察しながら、標本を描画紙にトレースするための描画装置です。
一度にピントが合わない部分は、ピントを合わせ直しながら重ね描きができます。
必要な部分のみを正確に描写することができるので、写真とは違った活用が可能です。

描画装置の取り付け方

鏡筒や同軸照明装置の取り付けと同じ方法で、描画装置のダブテールを本体のマウントに落とし込むようにして取り付けます。（3ページを参考にして下さい。）



		プランアクロマート対物レンズ									
		1.0X		0.5X		0.75X		1.5X		2.0X	
		作動距離		作動距離		作動距離		作動距離		作動距離	
		78.5mm		164mm		107mm		43mm		29mm	
接眼倍率	ズーム倍率表示	総合倍率	視野直径mm	総合倍率	視野直径mm	総合倍率	視野直径mm	総合倍率	視野直径mm	総合倍率	視野直径mm

UWF 10X 視野数 24mm	0.75	7.5X	32	3.75X	64	5.62X	42.7	11.25X	21.3	15.0X	16
	1	10.0X	24	5.0X	48	7.5X	32	15.0X	16	20.0X	12
	1.5	15.0X	16	7.5X	32	11.25X	21.3	22.5X	10.7	30.0X	8
	2	20.0X	12	10.0X	24	15.0X	16	30.0X	8	40.0X	6
	2.5	25.0X	9.6	12.5X	19.2	18.75X	12.8	37.5X	6.4	50.0X	4.8
	3	30.0X	8	15.0X	16.0	22.5X	10.7	45.0X	5.3	60.0X	4
	3.5	35.0X	6.9	17.5X	13.7	26.25X	9.1	52.5X	4.6	70.0X	3.4
	4	40.0X	6	20.0X	12	30.0X	8	60.0X	4.0	80.0X	3
	5	50.0X	4.8	25.0X	9.6	37.5X	6.4	75.0X	3.2	100.0X	2.4
	6	60.0X	4	30.0X	8	45.0X	5.3	90.0X	2.7	120.0X	2

UWF 15X 視野数 16mm	0.75	11.25X	21.3	5.62X	42.7	8.43X	28.4	16.87X	14.2	22.5X	10.7
	1	15.0X	16	7.5X	32	11.25X	21.3	22.5X	10.7	30.0X	8
	1.5	22.5X	10.7	11.25X	21.3	16.87X	14.2	33.75X	7.1	45.0X	5.3
	2	30.0X	8	15.0X	16	22.5X	10.7	45.0X	5.3	60.0X	4
	2.5	37.5X	6.4	18.75X	12.8	28.12X	8.5	56.25X	4.3	75.0X	3.2
	3	45.0X	5.3	22.5X	10.7	33.75X	7.1	67.5X	3.6	90.0X	2.7
	3.5	52.5X	4.6	26.2X	9.1	39.37X	6.1	78.75X	3	105.0X	2.3
	4	60.0X	4	30.0X	8	45.0X	5.3	90.0X	2.7	120.0X	2
	5	75.0X	3.2	37.5X	6.4	56.25X	4.3	112.5X	2.1	150.0X	1.6
	6	90.0X	2.7	45.0X	5.3	67.5X	3.6	135.0X	1.8	180.0X	1.3

UWF 20X 視野数 12mm	0.75	15.0X	16	7.5X	32	11.25X	21.3	22.5X	10.7	30.0X	8
	1	20.0X	12	10.0X	24	15.0X	16	30.0X	8	40.0X	6
	1.5	30.0X	8	15.0X	16	22.5X	10.7	45.0X	5.3	60.0X	4
	2	40.0X	6	20.0X	12	30.0X	8	60.0X	4	80.0X	3
	2.5	50.0X	4.8	25.0X	9.6	37.5X	6.4	75.0X	3.2	100.0X	2.4
	3	60.0X	4	30.0X	8	45.0X	5.3	90.0X	2.7	120.0X	2
	3.5	70.0X	3.4	35.0X	6.9	52.5X	4.6	105.0X	2.3	140.0X	1.7
	4	80.0X	3	40.0X	6	60.0X	4	120.0X	2	160.0X	1.5
	5	100.0X	2.4	50.0X	4.8	75.0X	3.2	150.0X	1.6	200.0X	1.2
	6	120.0X	2	60.0X	4	90.0X	2.7	180.0X	1.3	240.0X	1

保守手入れ

警 告



電気ショックに注意。電球は非常に熱くなっています。電球交換を始める前に、必ず電源コードをAC主電源コンセントから抜いてください。電球が十分に冷えてから電球を交換してください。



電球とヒューズの交換

電球やヒューズの交換を行う際は、必ず顕微鏡のスイッチ及び電源コードのプラグをコンセントから抜いて下さい。使用後すぐは電球及びランプケース自体が非常に熱くなっています。ランプケースに触ったり、アルコール、ガソリン、シンナー等燃え易い物質を熱くなっているランプケースに近づけないようにして下さい。切れた電球は必ず冷えてから取り外して下さい。もし触って電球に指の油などがついたら、アルコールできれいにふき取って下さい。汚れたまま使用すると電球の寿命が短くなります。

RZT及びRZDTのスタンドの電球交換

RZT透過照明スタンドの電球交換はスタンドの底板を外して行います。電球の交換にかかる前にスタンドから顕微鏡本体や付属品を外して下さい。スタンドを作業台に仰向けに倒して、底板中央上部の電球ソケット取り付け板（電球ドア）の2本セットネジをゆるめて、電球ドアをそっと引き出します。電球はドアに取り付けられたソケットに差し込んであります。電球が完全に冷えたことを確かめてから電球を頭の方向に垂直に引っ張ってソケットから抜いて下さい。振って引っ張ると電球の2本の細いピンが折れてソケットに残りソケットが使いなくなることがあります。（新しい電球は指で直接掴まないで、ティッシュペーパーを使うかビニール袋に入ったまま2本のピンをソケットにしっかり止まるまで差し込んで下さい。電球ドアを元に戻して2本のセットネジを締めて電球交換は完了です。

RZBDスタンドの電球交換

RZBDスタンドの150Wハロゲン電球は、スタンドとは別の電源装置（FL150）に収められています。FL150電源装置の正面から見て、右側面にあるランプ交換ドアを開きます。電球およびソケットが、十分冷えていることを確認してから作業を始めてください。

【注意！】電球は非常に熱くなっています。熱している電球に触ると大火傷をしますので、取り扱いには十分注意してください。

電球の下から突き出ている“はじき出しレバー”を後方に強く押しつけると、電球がソケットから外れます。ソケットから外れた電球を根元のピンに近い部分に指をかけてランプホルダーから引き出し、新しい電球と交換します。

【注意！】電球の反射鏡面や根元のピンに指で直接接触すると、電球の寿命が短くなりますので、電球交換の際は、反射鏡の外側かピンの上の部分のみを掴むように注意してください。

電球の交換が終わったら、側面のドアをクリップがカチッと入るまで押して締めてください。

保管のしかた

顕微鏡をご使用にならないときは備付けのビニールカバーを被せて保管して下さい。接眼レンズは接眼筒から塵が内部に落下するのを防ぐために、常に接眼筒に挿入しておいて下さい。顕微鏡は出来るだけ乾燥した清潔な場所に保管して下さい。

クリーニングのしかた

露出しているレンズ表面のゴミは空気圧で吹き飛ばすか、柔らかいブラシ又は清潔な柔らかい布で拭いて下さい。あまり強く押さえるとレンズを損傷します。油、指紋あるいはグリスのシミ等は、少量のアルコールを染み込ませた布で拭き取って下さい。塗装した部分やプラスチックの部分は少量の水又は洗剤をつけた布で拭いて下さい。レンズ部分の調整をしないで下さい。

もし当顕微鏡が正しく機能しないときは、お買い上げの販売店又は当社にお問い合わせ下さい。

日本国内で製造の日本製顕微鏡です

- 設計から製造まで一貫して日本国内自社で行っております。
- 多数の機種と付属品をそろえ、短納期でお届けしております。
- 精密機器に必要な、オーバーホール、修理も国内自社工場ですばやく行っております。



日本顕微鏡工業会会員
顕微鏡／関連用品 製造・販売

メイジテクノ株式会社

〒354-0043 埼玉県入間郡三芳町竹間沢322-1

【付属品を多数取り揃えております。】

お問合せ窓口／営業課

TEL:049-259-0111 FAX:049-259-0113

E-mail:meiji@meijitechno.co.jp

<http://www.meijitechno.co.jp>



MEIJITECHNO